

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
西洋音楽概論	新垣 隆	選択 (選択必修)	1	15時間	1/2	毎年

《授業の概要》

日本の作曲100年史 1888-1988

《到達目標》

明治からのおよそ100年の「作曲」をめぐる歴史の概観を知ること、西洋音楽演奏家としての自らのスタンスを見いだすこと。

《授業計画》

第1回 [4/24(月) 16:00~17:40]

授業: 21世紀の現状から

事前: 受講者自身の西洋音楽との関わりをそれぞれ振り返っておく。(60分)

事後: 1946年から1998年まで刊行されていた『音楽芸術』誌のいずれかのバックナンバーを通読する。(120分)

第2回 [6/5(月) 16:00~17:40]

授業: 西洋音楽との対峙

事前: 改めて自分の、あるいはさまざまな人たちの「西洋音楽との対峙」について考えておく。(60分)

事後: 授業と関連すると思われるもの、例えば『桐朋学園音楽部門 50年のあゆみ』や『N響80年 全記録』などを通読する。(120分)

第3回 [7/3(月) 16:00~17:40]

授業: ソナタの原理—ソナタとはなにか—

事前: 任意のソナタ形式(ソナタの中に組み込まれているもの)の楽曲分析。(60分)

事後: 任意のソナタの楽曲分析(120分)

第4回 [9/30(土) 16:00~17:40]

授業: 2つの『ヴァイオリンソナタ』—矢代秋雄と黛敏郎

事前: 1946年に作曲されたこれら二つの作品を試奏。(60分)

事後: 『明治音楽史考』遠藤宏(1948)を通読する。(120分)

第5回 [10/30(月) 16:00~17:40]

授業: 日本近代歌謡史

事前: J-popと自分との関わりについて考えをまとめておく。(60分)

事後: 芸術音楽とポップスとそれぞれ呼ばれるものについて、また両者の関係について、今までの授業内容を手掛かりに論考せよ。(120分) → 学年末にレポート提出。

第6回 [11/30(木) 16:00~17:40]

授業: 1953年から1978年までの25年間の作曲史

事前: 授業タイトルは「日本の現代音楽史」とほぼ同義とみてよい。これに当てはまる任意の楽曲を視聴せよ。(60分)

事後: 授業で取り上げられた作品から任意のものを詳細に研究する。(120分)

第7回 [12/11(月) 16:00~17:40]

授業: 日本の作曲における『交響曲』とは

事前: 上記の存在意義について考えをまとめておく。(60分)

事後: 授業で言及されたいくつかの「系統」から興味があるものを選び、その「ひとつながり」の意味を確認する(実際には、それらの作品群を一連の歴史の流れとして認識し、視聴し、スコアを研究する)。(120分)

第8回 [1/25(木) 16:00~17:40]

授業: 交響曲(=ソナタ)ではない、「アートとしての音楽」の存在

事前: いま一度「日本の現代音楽」全般について思いをめぐらし、それが成立し得る条件、あるいは基盤について考える。(60分)

事後: 今までの一年間の内容が、これからの自身の活動とどのような関係を帯びるのかを考える(→《到達目標》)。(120分)

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

1・2年次生。 ※専修免許状取得申請予定者必修科目。申請予定者は2年通して履修すること。

《授業の形式》

講義

《成績評価の要点》

試験：1％ 提出課題・作品発表等 20％ 受講姿勢：80％

成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

授業内でコメント

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

授業時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。